



海老名総合病院と地域医療
 県央二次医療圏で初めての
 救命救急センター設置へ



INDEX

■スタッフの総合力で地域に貢献

東埼玉総合病院
 救急医療レポート

■医療と介護サービスの連携強化

JMA グループ
 トータルケア・ガイドの活用

■県央二次医療圏初 救命救急センター

海老名総合病院
 地域ぐるみで取り組む救急医療

埼玉地区

- 医 療** 東埼玉総合病院
 埼玉県幸手市吉野 517-5 TEL:0480-40-1311
- 東埼玉総合病院附属 清地クリニック
 埼玉県北葛飾郡杉戸町清地 5-1-2 TEL:0480-37-2511
- 特別養護老人ホーム はなみずき
 埼玉県北葛飾郡杉戸町大字茨島 731-1 TEL:0480-37-4165
- 居宅介護支援事業所 ケアネット東埼玉こころ
 埼玉県北葛飾郡杉戸町清地 2-1-2 TEL:0480-33-2292
- 居宅介護支援事業所 ケアネット東埼玉あゆみ
 埼玉県北葛飾郡杉戸町清地 2-1-2 TEL:0480-33-2838
- 福 祉** 訪問看護事業所 JMA 東埼玉訪問看護ステーション 東埼玉総合病院内
 埼玉県幸手市吉野 517-5 TEL:0480-53-8471
- 訪問介護事業所 ヘルパーネット東埼玉
 埼玉県北葛飾郡杉戸町清地 2-1-2 TEL:0480-31-0561
- 福祉用具貸与・販売事業所 ケアレンタル東埼玉
 埼玉県北葛飾郡杉戸町清地 5-1-2 TEL:0480-32-2517
- 通所介護事業所 デイサービス東埼玉
 埼玉県北葛飾郡杉戸町清地 2-1-2 TEL:0480-34-2063
- 通所リハビリテーション事業所 東埼玉総合病院附属清地クリニック 通所リハビリセンター
 埼玉県北葛飾郡杉戸町清地 5-1-2 TEL:0480-37-3711
- 保 育** 認可保育所 わかば保育園
 埼玉県北葛飾郡杉戸町倉松 700 TEL:0480-34-8474

横浜地区

- 福 祉** 横浜市立脳卒中・神経脊髄センター
 介護老人保健施設 コスモス
 神奈川県横浜市磯子区滝頭 1-2-1 TEL:045-751-4165
- 居宅介護支援事業所 ケアネット磯子 介護老人保健施設 コスモス内
 神奈川県横浜市磯子区滝頭 1-2-1 TEL:045-750-0086

静岡地区

- 医 療** 下田メディカルセンター
 静岡県下田市 6-4-10 TEL:0558-25-2525
- 下田メディカルセンター附属 みなとクリニック
 静岡県加茂郡南伊豆町湊 674 TEL:0558-62-0005
- しらはまクリニック
 静岡県下田市白浜 1528-2 TEL:0558-27-3700
- 福 祉** 介護老人保健施設 なぎさ園
 静岡県加茂郡南伊豆町湊 674 TEL:0558-62-6800

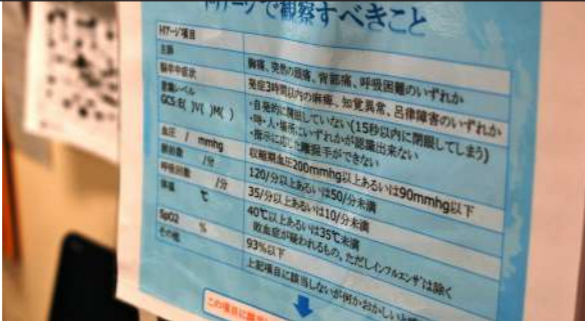
「あさがお」2017年<vol.15>
 発行日：2017年3月
 社会医療法人ジャパンメディカルアライアンス
 神奈川県海老名市河原口 1519 海老名メディカルサポートクリニック内
 本部 広報部 TEL:046-235-0765

海老名・座間地区

- 医 療** 海老名総合病院
 神奈川県海老名市河原口 1320 TEL:046-233-1311
- 座間総合病院
 神奈川県座間市相武台 1-50-1 TEL:046-251-1311
- 海老名メディカルプラザ
 神奈川県海老名市中新田 439-1 TEL:046-292-0222
- 海老名メディカルサポートクリニック
 神奈川県海老名市河原口 1519 TEL:046-235-1311
- 海老名ケアサポートセンター
 神奈川県海老名市今里 1-10-12 TEL:046-232-0606
- 今里クリニック 海老名ケアサポートセンター内
 神奈川県海老名市今里 1-10-12 TEL:046-232-8222
- 保 健** ヘルスサポートセンター 海老名メディカルサポートクリニック内
 神奈川県海老名市河原口 1519 TEL:046-292-1311
- 介護老人保健施設 アゼリア
 神奈川県海老名市河原口 1357-1 TEL:046-231-1311
- 特別養護老人ホーム さつき
 神奈川県海老名市河原口 1383 TEL:046-232-1318
- 特別養護老人ホーム シェ・モア
 神奈川県海老名市河原口 1581 TEL:046-236-1318
- 特別養護老人ホーム 和心
 神奈川県海老名市大谷南 3-20-15 TEL:046-236-4165
- 特別養護老人ホーム 陽だまり
 神奈川県海老名市社家 505 TEL:046-237-4165
- 居宅介護支援事業所 ケアネット海老名第Ⅰ 海老名ケアサポートセンター内
 神奈川県海老名市今里 1-10-12 TEL:046-292-1540
- 居宅介護支援事業所 ケアネット海老名第Ⅱ 海老名ケアサポートセンター内
 神奈川県海老名市今里 1-10-12 TEL:046-234-7480
- 福 祉** 訪問看護事業所 JMA 海老名訪問看護ステーション 海老名ケアサポートセンター内
 神奈川県海老名市今里 1-10-12 TEL:046-235-5955
- 訪問介護事業所 ヘルパーネット海老名 海老名ケアサポートセンター内
 神奈川県海老名市今里 1-10-12 TEL:046-292-3288
- 福祉用具貸与・販売・住宅改修事業所 ケアレンタル海老名 海老名ケアサポートセンター内
 神奈川県海老名市今里 1-10-12 TEL:046-235-7012
- 通所リハビリテーション事業所 今里リハビリステーション 海老名ケアサポートセンター内
 神奈川県海老名市今里 1-10-12 TEL:046-232-0606
- 訪問介護事業所 今里ヘルパーステーション 海老名ケアサポートセンター内
 神奈川県海老名市今里 1-10-12 TEL:046-232-0606
- サービス付高齢者向け住宅 カサポニータ海老名 海老名ケアサポートセンター内
 神奈川県海老名市今里 1-10-12 TEL:046-232-0606
- 地域包括支援センター 海老名東地域包括支援センター
 神奈川県海老名市東柏ヶ谷 3-5-1 ウェルストーン相模野102号
 TEL:046-292-1411
- 地域包括支援センター 海老名中央地域包括支援センター 海老名メディカルサポートクリニック内
 神奈川県海老名市河原口 1519 TEL:046-234-2973
- 保 育** 認可保育所 すこやかハウス
 神奈川県海老名市河原口 1599-1 TEL:046-234-4152



救急科の電話の横には、救急隊からの電話の際に記入する問診票が用意されている。看護師の他、直接石崎医師が電話に出て対応することもある。

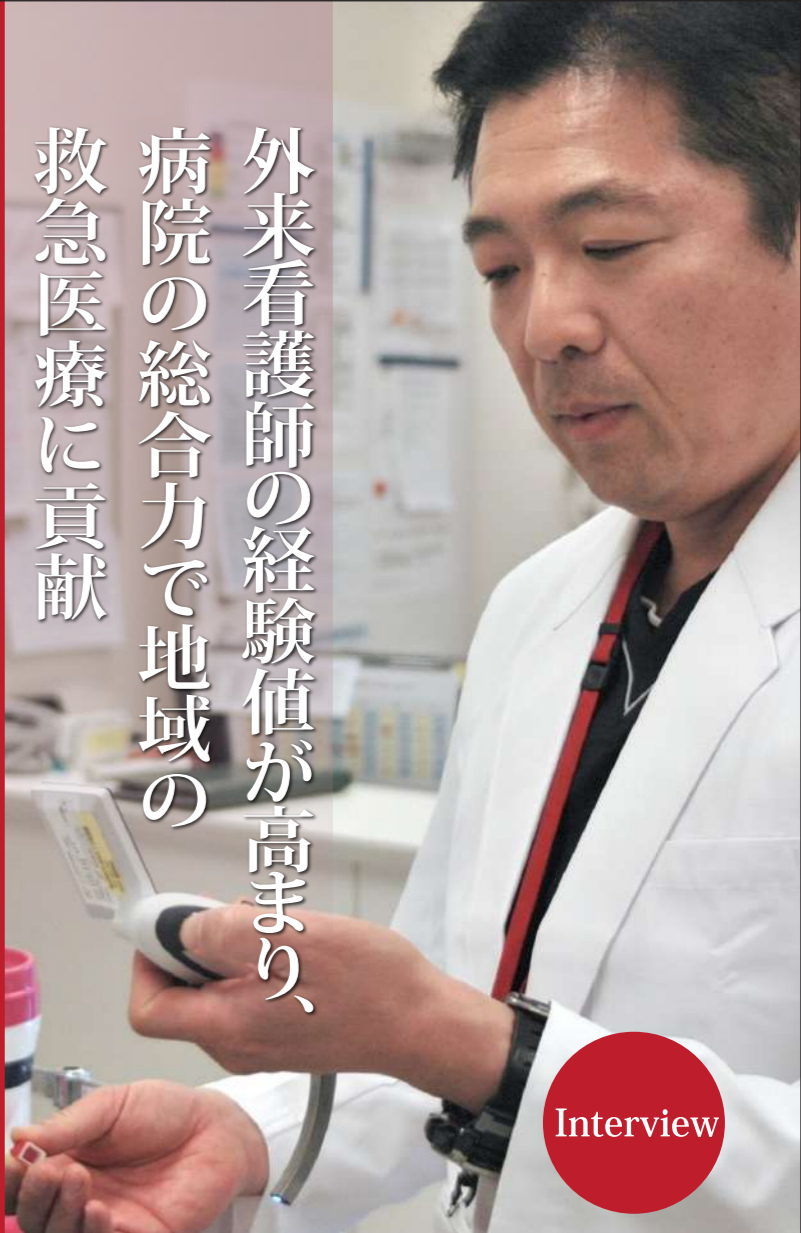


救急科で策定したトリアージのガイドラインが院内各所に掲示してある。救急経験のない看護師も、この規準に該当する患者を発見したら、すぐにハリーコールをすることになっている。

外来看護師の経験値が高まり、 病院の総合力で地域の 救急医療に貢献

東埼玉総合病院の救急医療レポート

Interview



埼玉県利根医療圏

東埼玉総合病院のある利根医療圏は医療資源の少ない地域だ。そのため「地域密着型中小病院の新しいモデルになろう」という目標を掲げている。

救急医療も重点課題の一つ。2年前から救急医の石崎嘉宏が中心となり、断らない救急を目指して職員のスキル向上や地域との連携に取り組んできた。

救急車の受入件数が 2倍以上に増加

現在、東埼玉総合病院では、救急専従の医師1名と看護師2名体制で救急の受け入れに備えている。年間救急車受入件数は約2千8百件。2年ほど前の年間約2千4百件から受け入れ数を増やすことができた。「かつては医師不足のため救急医がならず、外来の医師が担当していました。そのため救急患者さんを受け入れると外来の診察がストップしてしまいます。さらに入院病棟での診察も

救急対応できる 外来看護師を育成

「救急はチームです。救急はチームです。看護師、社会福祉士、事務職などと一緒に取り組んでいます」

あります。そうした勤務体制のなか、目の前にいる患者さんを優先しなればならず、救急の受入件数が伸び悩んでいました。そのため、病院長や副院長が救急対応するケースもありました」
2年前に救急医として着任した石崎は当時を振り返る。「断らない救急を実現するためには、職員の協力が欠かせません。積極的に受け入れができる院内体制を構築するとともに、地域との信頼関係づくりにも取り組んできました」
救急も担当していた外来の役割を整理すること、看護師の能力向上が改革のポイントだ。「当院はトリアージ型です。救急で受け入れた患者さんは、私が初診を担当しています。CTなどの検査も実施し、診断してから担当の診療科に引き継ぎます。すべての検査は救急科で終えているため、診療科ですぐに治療を開始できます。時間をロスすることもありません」
救急科では病棟で患者が急変したときの処置も担当している。

石崎が特に取り組んできたのが看護師のスキル向上だ。2名の外来看護師が当番制で毎日救急科を担当している。「外来看護師が救急を担当することになったときの不安は大きかったと思います」
救急が未経験という看護師がほとんどだったが、OJTで教育してきた。さらに月曜と木曜には症例検討会を続けている。「この2年間で外来看護師のスキルはかなり向上しました。今後は救急看護の取り組みを病棟まで広げたいです」
この救急チームは院内でも活躍している。病棟で心肺停止などの急変があったとき、看護師はPHSを操作して館内放送でハリーコールをする。そのときは救急医や外来看護師が駆け付けて、すぐに処置を開始する。「救急で経験を積んできた看護師は指示を待たずに機器を準備して記録を始めなど、チームとして自主的に動けます」

これは救急などの経験がない病棟看護師をフォローするためのシステムだ。さらに院内トリアージのルールも救急科で策定した。これに該当した症例の場合はすぐに対応する決まりだ。ガイドライン化されており、経験の浅い看護師でも安心して対応することができるようになった。
事務職の役割も重要だ。救急車

が到着するまでに電子カルテを立ち上げておく。「救急科では看護師がしなければならぬ業務もたくさんあります。そのため、看護師でなくてもできる業務は事務職員に振り分けています。これは看護師の業務量をできるだけ増やさないようにするためです」

救急医療の 最前線に立つ救急隊 との信頼関係

「現時点で、当院のシステムでは医師が現場に駆け付けることができないので、救急隊による病院前救護を重視しています。救急隊の仕事は否定せず、信頼関係を築いていくことが大切です」
長年、埼玉県で救急医療に携わってきた石崎は救急救命士の養成学校

で講師をしていたこともあり、「救急救命士で私のことを知っている方は多い」と言う。そうした経験のなかで気になっていることがある。「この地域の救急隊は報われれないと言われています。搬送先の医療機関がすぐに見つかりません。ようやく受け入れ先が見つかり搬送しても、その救急担当医師にはトリアージと患者さんの状態が違うと叱られてしまうことがあります。だから救急隊にとって救急担当医師の印象は良くないようです」

お互いが厳しい条件のなかで最善の救急医療を提供するために奮闘しているが、余裕のなさから時として救急隊と難しい関係になることもあるという。
しかし病院で待機する石崎は「救急隊には医師の目や手となってトリアージしてもらいたいと期待しているからこそ、お願いしていること

があります。救急の受け入れ要請は原則として断らないから、症状を軽く判断してしまうアンダートリアージだけはしないでほしいということ。反対に、オーバートリアージであれば問題ありません。アンダーで重大な症状を見逃してしまうことがいけないのです」

「救急隊は自分たちのトリアージと処置の何が正しくて、どういった誤りがあったのかを学ぼうとしています。その理由を私に質問してきます」
病院と救急隊が切磋琢磨する関係になってきた。

さらに石崎は救急隊が対象の症例検討会を年2回実施している。搬送した患者のその後についてフィードバックすることがモチベーションを高めるだろうと期待しての取り組みだ。
着任して2年がたち、救急隊との信頼関係は深まってきた。「救急の受け入れ件数が徐々に増えてきました。東埼玉総合病院が救急隊から認められるようになってきたからだと感じています」
最近では、搬送してきた患者の処置を見学していく救急隊も増えてきた。

救急隊からの受け入れ要請になるべく応えようとする大きな理由について石崎は、「本当の重症患者は軽傷者のなかにもいます。救急隊からの電話だけで判断できないから、断らない救急が重要です」と話す。そして「救急隊の力は大きいですよ。患者さんは病院を選ぶことができますけれど、救急隊を選ぶことはできないですから」と、救急隊の背中を押し続けている。
断らない救急医療を目指す取り組みは、病院が提供する医療の質を高めるとともに、地域にもその思いが伝わってきた。

東埼玉総合病院
救急科 診療科長
石崎 嘉宏
平成26年入職。
救急医療(小児から成人まで)、総合診療を担当。
救急専門医、総合診療専門医、外科専門医、小児外科専門医、ドック・健診専門医、産業医、作業環境測定士、臨床研修医指導医ICLSディレクター等の資格を有している。

東埼玉総合病院
〒340-0153 埼玉県幸手市吉野 517-5
TEL.0480-40-1311

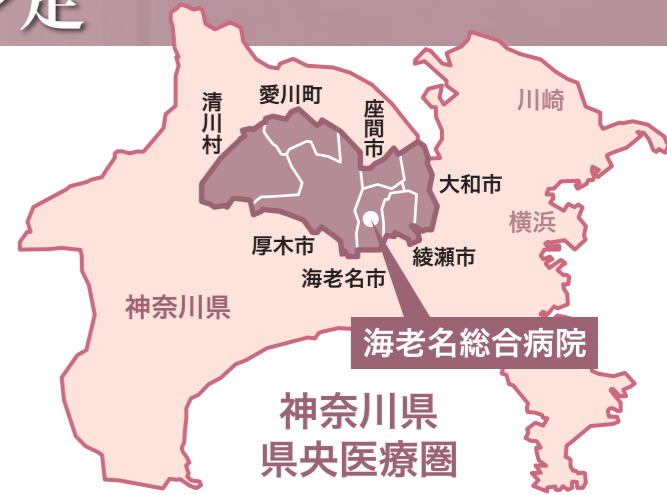


海老名総合病院と地域医療 Interview

海老名総合病院では平成29年4月1日に救命救急センターを設置予定だ。これまで神奈川県県央医療圏には救命救急センターがなく、また救急告示病院数も減少しており、住民や地域自治体からも救命救急医療の強化が期待されている。社会医療法人ジャパンメディカルアライアンスは急性期医療を中心に、「質の高い保健・医療・福祉サービスを24時間365日提供することにより、地域貢献を果たす」という基本理念を掲げている。その責務としても、救命救急センターの設置に向けて取り組んできた。



神奈川県県央医療圏で初めての救命救急センターを設置予定



救命救急センターと専用病床20床を設置予定

現在、海老名総合病院では、年間に約8千台の救急車を受け入れている。これは海老名市内（人口約13万人）の出勤件数の約80%ほどだ。また隣接する座間市（人口約13万人）と綾瀬市（人口約8万人）からは救急出動の約40%を受け入れ、三市の人口約34万人圏において二次救急を担ってきた。

そして平成29年4月からは救命救急センターとして、受け入れ体制を強化する。海老名総合病院院長の服部智任は「一年間に1万台の救急車を受け入れられるようになり、断らない救急医療の実現を目指します」とセンター設置に向けて準備を進めてきた。

地域ぐるみで救急医療に取り組む

救急医療は地域との連携が非常に重要だ。「救急患者さんと最初にコンタクトするのは消防の救急隊員です。彼らが適切にトリアージできることが大切です。そして患者さんにとって適切な医療機関を選択してもらいます」

そのためには市民の理解も必要だ。いつでも高度救急の海老名総合病院で診てもらいたいと考えず、病状や怪我に応じて、比較的軽症ならば座間総合病院に搬送してもらうことでスムーズに治療を受けられる場合がある。「県央医療圏の救急医療のなかでも小児救急は医師数も少なく、厳しい状況が続いています。そこで海老名総合病院では他の医療機関と輪番制の小児救急ルールをつくりました」

当番の曜日には必ず小児科医が診察できる体制にすることで、お子さんの急病のとき内科医師しかいないという事態にならないよう取り組んでいる。

院内救急RRSチームが活動中

「病院内においても救急医療の質向上が課題でした。そこで1年半ほど前から院内救急対応システムRRS(Rapid Response System)を始めました」

これは病棟の看護師が入院患者の異変を感じてコールすると、院内の

置に向けて準備を進めてきた。

現在は病院1階に救急科があり、そして今回、2階に救急専用の病床20床を整備した。さらにMRIを1台増設。三次救急としての体制を整えている。「救急外来で受け入れた後、救急病棟で症状が安定した患者さんについては、専門科が引き続き治療をします」

断らない救急医療を目指す

専用病床を持つことで救急の受け入れ能力が大幅に改善する。「これまで病棟のベッドコントロールが理由で救急を受け入れられなかったケースがありました。今後は救急病棟で治療しながら院内で入院ベッドを調整できるようにします」

職員体制も増強の予定だ。「救命救急センターの専属医師が7名体制になります」

現在、日中は救急担当の専従医師は2名体制で、必要に応じて各科の医師が治療を担当している。時間外は内科、外科、小児科、産婦人科、循環器科、脳神経外科の医師6名と研修医で救急対応をしている。

座間総合病院と一体で地域の急性期医療を提供

「救命救急センター設置に合わせて救急救命士も増員します」

これは海老名総合病院で受け入れ

RRSチームが駆け付けて対応するもの。心停止など致死性の高い急変に至ることを防ぐシステムとして麻酔科や救急の看護師を中心としたチームで取り組んでいる。患者を守るだけでなく、急変対応の経験が浅い看護師も安心して働ける環境づくりにつながっている。

県央医療圏の高齢化率は約10%。これは県内平均よりも若干低いですが、それでも高齢の患者が目立つようになってきた。そうすると心配なのが合併症だ。「糖尿病で入院したけれど、心筋梗塞が心配というケースもあります。そうした医療ニーズに対応するためにも、病院全体でチーム医療を展開しています」

高度急性期の海老名総合病院では、専門的な治療を提供するとともに、他科連携を重視している。入院した診療科に関わらず、全診療科の治療をすることができ、医局もワンフロアなので、他科の医師とコミュニケーションが活発だ。「循環器内科と心臓血管外科では毎日合同カンファレンスを実施するなど、総合病院としての医療環境づくりをしています」

患者の受診支援を重視 早期退院で生活に戻す

海老名総合病院では、高度急性期病院として質の高い医療を提供している。その一方で、最新の治療法や複雑な医療介護制度を患者が十分に理解することが難

た救急患者の入院ベッドを確保できなかったとき、症状が安定してからJMAグループの座間総合病院へ転院する救急車に救命士が乗務して患者の管理をすることも想定している。

座間総合病院は海老名総合病院から約7kmほどという近さだ。「海老名は高度急性期病院、座間は急性期から慢性期までのケアミックス病院です。同じ機能の病院が2カ所にあるのではなく、それぞれの病院機能ごとの役割を意識しながら、両病院が一体となり、地域密着型高度急性期医療を提供していきます」

海老名総合病院だけでは対応が難しい状況でも座間総合病院と連携することでより高度な救急医療を目指す。

両病院は、診療においても連携に取り組んでいる。「座間総合病院で、頭部と心臓の疾病については専門的な治療体制の整っている海老名総合病院への受診や入院をおすすめすることがあります。また海老名で診察したけれど入院ベッドをすぐに用意できないときは座間での入院をご案内することもできます」

座間総合病院から海老名総合病院の検査予約が可能になるなど、システムの統合も進めている。両病院の検査機器やベッドを効率的に運用することで、医療の質を高めることができる。

しなくなっているため、患者の受診や退院の援助を重視している。「手術の入院時は、術前から医療ソーシャルワーカーが担当して、治療費などの不安があるときは、介護サービスのご案内もしています。平均在院日数は約10日ですが、安心して退院できるように、早いタイミングからサポートしています」

JMAグループでは、医療・介護などを提供しているが、患者や利用者からの問い合わせはそれぞれの病院や施設で受け付けているので、どこに何を相談すればよいのか分からないという声もある。そこで今後はJMAグループとして総合相談窓口を持ちたいと考えている。「その方に必要な医療や介護をスムーズに提供できるように取り組んでいきます」と、今後の展望について熱く語った。



海老名総合病院
病院長
服部 智任

平成12年に入職。平成20年、海老名メディカルプラザ院長に就任。平成24年、海老名総合病院副院長、平成27年より海老名総合病院の病院長として現在に至る。専門は泌尿器科で、主に排尿障害と悪性腫瘍に対する診療に従事。

医療と介護サービスの連携強化にむけて

JMAグループとして、地域コミュニティに貢献できる医療・介護サービスの流れを可視化した『トータルケア・ガイド』を作成しました。これからもご利用いただく皆さまに、つながる安心感を提供してまいります。



JMAグループの目指すべきカタチに

団塊の世代7百万人が後期高齢者となる2025年、神奈川県海老名市においても65歳以上の高齢者の将来推計人口は3万5千人を超え、総人口の27%にも達する見込みです。(出典：国立社会保障・人口問題研究所)

現在、神奈川県海老名・座間地区で医療5施設、保健1施設、福祉15事業所を展開しているJMAグループでは、長期ビジョンとして「医療から介護までの一体化された組織体制を構築し、地域包括ケアシステムに資する組織になる」ことを掲げています。これまでは医療と介護では報酬制度が異なることもあり、各施設それぞれが提供するサービスの質を高めることに注力してきたさらには「ありのままの視点で考えると、地域包括ケアシ

つながる安心感の提供

病気の患者さんに対し、これまでは医師が「救命して完治させること」を使命として治療にあたってきました。しかし、患者さんとしては、病気そのものが治るだけでなく、その先の日常生活が守られて初めて、「十分な治療を受けた」と感じられるの

ではないでしょうか。昨今、医療・介護を取り巻く環境はますます複雑になっており、医療保険制度や介護保険制度をしっかりと理解したうえで、医療・介護サービスを使い分けていくことはかなり難しくなっています。実際に来院された利用者さまの中にも、「この身体状態で受けられるサービスは何があるのか」と、家に帰ってからその先が見えず、不安を抱かれる方が多くいらっしゃる、たびたびご相談を受けています。

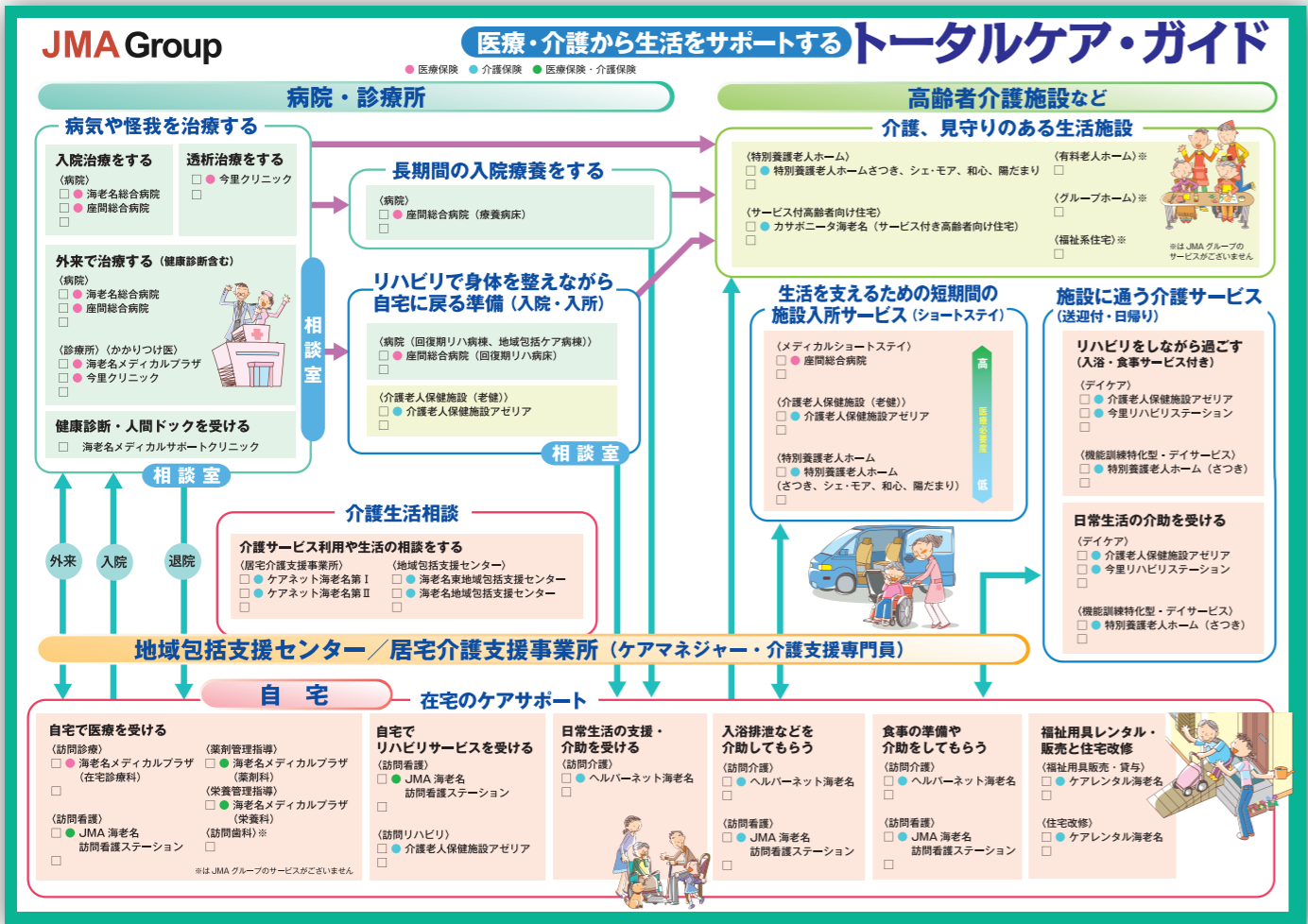
そのような状況を解消するため、医療・介護サービスの流れを一覧にした、『トータルケア・ガイド』を活用することで、様々な支援サービスや選択肢があることを知っていただき、住み慣れた地域で、自分らしい生活が送れるようにご相談してまいります。

地域のサービス機関と益々の連携を

JMAグループの海老名・座間地区では、各事業所に配属しているケアマネジャーやソーシャルワーカー・相談員、そして退院支援看護師など、医療と介護のサービスの施設間、制度間をつなぐコーディネーター役は、総勢50名ほど在籍しています。そのメンバーが中心となり、地域の皆さまに対して、包括的に支援していくことに挑戦していきます。もちろん、JMAグループだけでなく全ての市民の皆さまをサポートできるはずもなく、地域の他法人やサービス提供機関とも協働しながら、医療・介護サービスを必要とする方それぞれにニーズに合った内容をご提案していきたいと考えています。2025年まで、あとわずか8年しかありません。一刻も早く「地域包括ケア」を実現させていきたいと考えています。

『トータルケア・ガイド』をより活用するために

多種多様な医療・介護サービスがありますが、専門用語が多く、それが利用者さまの理解を妨げてしまっていることもあります。例えば、「デイケア」と「デイサービス」では何が違うのか、わかる方はほとんどいないはずです。そこで『トータルケア・ガイド』とそれを補足する『パンフレット』では、極力わかりやすい言葉を使っています。JMAグループのそれぞれの施設で働くソーシャルワーカーなどの専門職員が、この『トータルケア・ガイド』と『パンフレット』を使って、将来にわたり生活を支えるための様々なサービスを、皆さまの状況に合わせてご提案・ご説明いたします。



通所リハビリテーション/通所介護
 住み慣れた我が家で、自立した日常生活を送ることができるように受ける介護サービス

「デイケア・デイサービス」では、利用者さまの生活リズムに合わせて自立した日常生活を送ることができるよう施設に備え、食事や入浴などの日常生活上の支援や、生活機能向上のための機能訓練などを見守りで行います。

利用したい場合は、ケアマネジャーまたは地域包括支援センターにご相談ください。

サービス内容

通所リハビリテーション (デイケア)
 食事、入浴などの日常生活上の支援に加え、日常生活動作向上のための訓練などを行う。生活機能向上のための機能訓練などを見守りで行います。専門職のスタッフが提供するサービス。

通所介護 (デイサービス)
 食事、入浴などの日常生活上の支援や、日常生活動作向上のための訓練などを行う。生活機能向上のための機能訓練などを見守りで行います。専門職のスタッフが提供するサービス。

サービスを提供している事業所
 ● 海老名東地域包括支援センター
 ● 座間地域包括支援センター
 ● デイサービス

通所リハビリ・通所介護で、さらに専門職の相談
 リハビリ 介護 通所介護 (介護士)